

2012年版政府開発援助(ODA)白書 日本の国際協力

<主要なポイント>

第Ⅰ部(特集): 共に歩み、共に成長する国際協力

1. 共に歩むODA

●自由で豊かで安定した国際社会を実現するためのODA

自由や民主主義といった普遍的価値や戦略的利益を共有する国、国民和解に向けて国づくりを進める国を支援

●日本への信頼を強化するODA

「人間の安全保障」の理念に沿った支援を推進。特に、全ての人々に恩恵が行きわたる成長の実現を支援。NGOを含む多様なパートナーとの連携強化

2. 共に成長するODA

●中小企業等の国際展開と日本経済の再生に貢献するODA

中小企業・地方自治体の海外展開を支援。官民連携を通じた協力を強化

第Ⅱ部(特集): 災害に負けない社会づくりー日本の防災協力

●我が国の震災の経験と教訓を世界と共有

「世界防災閣僚会議 in 東北(2012年7月)」の開催等

●防災を協力の重要な柱に(防災の主流化)

ASEANでの防災ネットワーク構築を目指した取組等

第Ⅲ部(実績編) 第Ⅳ部(資料編)

●日本のODA実績と国際比較、課題別・地域別の具体的取組など

(要旨)

第Ⅰ部：共に歩み、共に成長する国際協力

1. 共に歩むODA

- ・ 国際環境が変化する中で、ODAを通じて、自由や民主主義といった普遍的価値を共有する国、戦略的利益を共有する国、国民和解実現に向けて国づくりを進める国を支援。
- ・ 人間の生命と尊厳を守り、一人ひとりの能力の開花を国と社会の発展に結びつけようという「人間の安全保障」の理念に沿った支援。特に、開発の推進力となる成長の成果を分かち合うことで、貧困削減を進め、全ての人々に恩恵が行き渡る成長を実現。
- ・ 国際協力の領域は、宇宙やサイバー空間へも広がる。海洋においても海賊対策など、新たな課題に対応するための支援も進んでいる。
- ・ 効果的な国際協力には、日本の総力の結集が重要。政府のみならず、自治体、NGO、中小企業を含む民間企業などが連携し、専門性や資金を活かして課題解決に取り組む。

2. 共に成長するODA

- ・ 膨大な開発ニーズに対してODA資金のみならず、民間資金も役立てる必要。
- ・ ODAを用いたインフラ整備により、民間資金流入を促進するなど、ODAと民間資金が連携することがODAの援助効果を一層大きなものにする。
- ・ 日本の中小企業、地方自治体は途上国の開発に役立つ優れた技術を持つ一方で、海外での展開についての情報などを必要としている。ODAによって両者を結びつけ、開発課題の解決と中小企業や自治体の海外展開の両立を図る。

第Ⅱ部：災害に負けない社会づくりー日本の防災協力

1. 防災を世界に発信する

- ・ 2012年7月の「世界防災閣僚会議in東北」において、日本は、震災の経験と教訓を世界と共有。防災分野で2013年から3年間で30億ドルの支援を行う旨表明。防災の主流化と強靱な社会の構築、人間の安全保障を防災の取組の基礎とすることなどが議論された。

2. 防災協力の実際

- ・ 防災は日本の協力の重要な柱の一つであり、アジアにおいて特に重要。ASEANに対しては、日本の防災知識や先進的取組を活かすためにASEAN地域でのネットワーク構築を目指している。
- ・ 防災や災害後復興分野では国際機関との協力も行っているほか、太平洋島嶼国に対しては、防災分野で、コミュニティの防災能力強化、海岸浸食対策など様々な協力を行っている。

第Ⅲ部：2011年度の政府開発援助(ODA)実績 第Ⅳ部：資料編

- ・ 2011年(暦年)の政府開発援助(ODA)の支出純額は、対前年比1.7%減の約108億3,142万ドル(円ベースでは対前年比10.7%減の約8,633億円)で、米国、ドイツ、英国、フランスに次ぐ第5位(前年も第5位)、対GNI比率は、0.18%(前年0.20%)であった。
(注)支出総額実績は、米国に次いで第2位(前年も第2位)